

総合教育会議（第4回）議事録

1 開会年月日	平成30年3月20日（火） 午後3時
2 場 所	笠岡市役所 市長室
3 出席委員等の氏名	笠岡市：市長 小林嘉文 教育委員会：教育長 岡田達也 教育委員 三谷信恵, 石井啓弐, 藤谷幸弘, 山下敬広
4 欠席委員等の氏名	なし
5 会議に出席した者の職・氏名	教育部長 井上洋一 教育総務課主任主事 川口麻希
6 議事案件及び会議の概要	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 小林市長 岡田教育長</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 笠岡市教育大綱の見直しについて</p> <p>まず、井上部長から資料の説明と笠岡市教育大綱の案について説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間は平成30年4月から平成33年3月までの4年間の案となっているが、期間は法律では定められていない。現在の教育対向は平成27年度から始まったので29年度までで策定をした。それにより案を3年としているが、第7次総合計画が8年間あるのでその前半4年間とする案も存じる。 <p>〈留意点〉</p> <p>第7次笠岡市総合計画の将来ビジョン「元気・快適・ときめき 進化するまち笠岡」基本理念4つの柱の「3. 未来戦略輝く」を踏まえたものとする。3番目の中に教育に関する政策があるので、その未来戦略輝くを踏まえた基本理念にするのはどうかと思っている。</p> <p>まず、期間について意見をいただきたい。</p> <p>〈意見交換〉</p> <p>市長：総合計画に合わせるかどうかということ？</p> <p>部長：総合計画の前半に合わせるか、教育長の任期に合わせるかどうか。</p> <p>教育長：教育大綱というのは笠岡市の在り方に関係するので全国的な市町で調べると、市のビジョンに合わせた年限が多いと思う。法では4～5年と入っているところもあるので、4年というのがいいのかと個人的には思う。</p> <p>市長：首長の任期とか関係なく、事業計画そのものを期間に合わせていくというのがいいということ。</p> <p>教育長：人によって変わるのはいくつかないので、市のビジョンに反映されたものが教育大綱だというふうに一応法的な解釈にはなっていると思う。</p> <p>委員：（全員4年という意見）</p> <p>部長：市長は？</p> <p>市長：4年で。</p> <p>では、期間を2018年4月から2022年3月までの4年間とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育大綱の文言について <p>教育長：一応参考ということで、委員の方も考えられていることがあると思うので市長の意見も入れていただければと思う。ある程度最終決定まではいかないにしても、どういう言葉を入れたいかというのがあれば、どういうふうな思いにするかこれが1番基本になって、これを基に教育委員会が作る実施計画ができるので。総社関係で言うと学校教育だけを気にするので、教育行政全体の生涯とスポーツ振興のところに入っているのが多い気がする。</p> <p>部長：総社は特徴的には「愛す子どもを心優しい子ども礼儀正しい子ども」になって。</p>

市長：子供たちもこの教育大綱の基本方針を記憶にとどめるのか？

教育長：一応そうしたいとは思っている。

市長：そうしたら分かりやすい方がいい。総社は覚えやすいということも考えて選んだのだろう。

教育長：教育大綱がどんなものかということは、学校現場・生涯学習で知らない方もいると思うので、市長がおっしゃったように私の思いとしては、みんなが言える言葉を作っていきたいと思っている。

市長：この中で1番使われている言葉は「輝く」。

教育長：一応これは4つの未来戦略にも「輝く」を入れたので多くなっている。

市長：「輝く」という言葉は子どもも分かりやすい言葉か？

教育長：子どもたちは「輝く」をよく使う。校内研究という学校の具体的な話をする時に「笑顔輝く」とか「輝く人生」などとよく使うのでキラキラしてどの子も主人公みたいなきときによく使う言葉。

石井委員：私が作った文面にも「輝く」がたくさん入っていて、「輝く」はいいような気がする。

教育長：「学ぶ」という言葉も使われている。

市長：「学ぶ」という言葉もいいと思う。学校だから。

教育長：最近は「未来を拓く」という言葉がよく使われている。グローバルな社会云々かんぬんとか。

石井委員：タブレットPCを全員が持って力を入れている。

市長：全員持っているのか？

教育長：総社は1人1台。

市長：持って帰れるのか？

委員：持って帰れる。新見市も持って帰れるので。

教育長：新見市は企業が入っている。持って帰れるのはソフトで個別化学習のソフトが入っていないと持って帰っても意味がないので、ソフトのお金結構かかる。ヒアリングで言っても返ってくるので。個人ドリル的な問題があるとか。

市長：笠岡で1人1台持つといくらかかるのか？

部長：備前に事前に話しを聞きに行ったときにお聞きして、笠岡の子どもが持てると3億円。

教育長：タブレットはそれプラス維持管理の関係があるので、子どもたちが使うとよく壊れるので。落としても壊れないようにケースもちゃんとしたものは3~4000円するので。

市長：その覚悟で徹底的に使わないと意味が無い。

部長：ちなみに前回の教育委員会で示した全国的な例など。

教育長：犬山市は結構全国的にも有名な教育をしているので評価が高い。

市長：表現がいいか悪いかは別にしてこういう言い方、「学力・礼儀・優しさ・故郷とともに輝く」というスローガンは私は好き。

教育長：これは今の教育の中で全部大事にされているので、故郷という自分のふるさとを愛するという文言は結構どの市町でも多い。

市長：古い里と書くのは嫌い。

教育長：ふるさとと平仮名で書くところが多い。

三谷委員：私は「わかる喜び・学ぶ楽しさ・伸ばす個性あるいは輝く個性」わかる喜びが、勉強が分かってくれしくなる。学ぶ楽しさが生涯学習。伸ばす個性というのがそれによって輝くかもしれないいきいきとしてくる自分、個が元気になってくるという意味で作った。

教育長：基本的に3つがよくなるのは知・徳・体という言葉が入ってくる。知識と頭・心・健康。知・徳・体という言葉のカバーできれば小学生でも使える。

市長：3つがいい。3つにしよう。

山下委員：よくないと思うのは、「安心・安全」という言葉を使うと逆に不安になる。独自性があるほうがいい。歯切れの良さは大事。

教育長：どの学校園でも唱えられるようにしたいと思うのが1番。だから歯切れのいい3つで。

部長：「輝く個性」というのもいいのではないか。

教育長：「わかる喜び・学ぶ楽しさ」が同じような。徳の部分があればいいなと。学ぶという言葉は小学生含めてよく使うので、1つ目が学力の面・知で「学ぶ楽しさ」アクティブラーニングという自ら学び深く考えて共に学ぶという。

市長：「体」で輝く個性を代用できないのか？

教育長：「輝く個性」というのは主にどういったことなのか？生き方に関係するような感じ。

三谷委員：今、時代は個性を伸ばすと言っている。人と一緒じゃなくていいという意味もあるし、自分自身でいいって意味もある。学んだことを人に教えるということもあるので、深い意味はないが発展的な意味で伸ばす個性という意味で使う。

教育長：自分で輝くという自ら目標に向かって頑張るとかそういうこともある。

市長：市長が個性が強いと言われているから「個性」がいい。

教育長：最近学校教育で言われているのが、人と人がつながり合うこと。人は一人で生きてはいけないというものがあって、輝く個性というものの中にお互いが考え合うという関係性が1つ入ったらいと思う。

藤谷委員：私が今考えているのが、「つながる喜び」というのが2番目くらいにくるのはどうか。直接は関係ないようだけれど

教育長：他者を思いやる人権尊重。

市長：個性と相反するような気がする。

教育長：集団教育の中で個性を磨くわけだから反することはないと思う。

部長：「つながり」というのは岡田教育長が就任の時にも1番大事にしたいと。

教育長：「共生」という言葉が社会の在り方として言われているのでそういう視点も入っている。

市長：学校教育にも入っているのか？

教育長：友達としっかりコミュニケーションをとって最終的に自分で判断するが、関わりが希薄になっているということで。「学ぶ楽しさ・つながる喜び・輝く個性」

三谷委員：抽象的な部分に「つながる喜び」を入れてはどうか？

市長：「学ぶ楽しさ・美しい心・輝く個性」

教育長：「美しい心」だと、。人に優しくする・みんなと仲良くするというような。最近では地域への思いも含めた言葉がよくでてくる。「心」という言葉には「豊かな」という言葉が全部を網羅したということについてくる。

市長：「生きる力」

三谷委員：今日の卒業式の中にも「生きる力」が入っていた。

教育長：「生きる力」の中に人と関わる力を入れるか。そう考えた時に心の部分も「生きる」という言葉で含めることができる。

市長：「生きる」を「生きる」にするのは。

教育長：「活」というのは意味があって、活用する・活躍するとかの生きるということで若干限定される。

市長：最近の子供たちは豊かな社会に生き慣れている。

教育長：「学ぶ楽しさ・生きる力・輝く個性」が今1番いいと思う。

部長：「生き抜く力」という言葉は重たいが、あえて笠岡は力点を置くということにすればいい。今現在としては「学ぶ楽しさ・輝く個性・生き抜く力」

教育長：これを全部の教育行政の部分で使うので覚えておいてほしい。

部長：△△先生にお願いするのを含めて案とする。

(2) 学校給食センター跡地の利用計画について

まず、井上部長から学校給食センター跡地利用の案について説明があった。

・教育委員会としては学校規模適正化、幼稚園・保育園を含めた公共施設総合管理計画を踏まえ、富岡の認定こども園を給食センター跡地に持っていき、今の富岡幼稚園を更地にして分譲という方がスムーズに保・幼の認定こども園・学校施設があつていいのではないかという意見。それにより富岡幼稚園の駐車場問題も解決する。

〈意見交換〉

市長：認定こども園の対象エリアはどこか？横江幼稚園は富岡・神島どちらにいてもいいのか？

教育長：はい。選択が幅広くなる。

部長：こども部からいただいた資料では、横江幼稚園は廃園。富岡幼稚園を適正化という計画。

教育長：西大島は、和光保育園・つばくろ保育園・富岡幼稚園という選択肢になる。

市長：いい案だと思うが、適化法の問題だけ確認が必要。小学校と認定こども園が一緒に上がっていくという意味でいいと思う。

山下委員：小学校に隣接するところの宅地はニーズは結構問題がある。騒音・土埃・車の出入りなどがあり

ネットで検索してみてもネガティブな意見が多い。分譲として売るときに1つハードルが下がってしまふ。もう一つはそれを知らずに買った方がもしかして学校にクレームを始め問題になる可能性もある。都市景観としてあそこに宅地ができると今の雰囲気はなくなってしまうと思う。都市景観を考えると学校施設でまとめていくというのが1つの考えだと思う。

部長：こども園化は30年度の上旬に教育・保育施設の再配置計画を決定する。中旬に説明会。予定では富岡幼稚園のこども園化は平成33年4月。

市長：こども園化するときに新しい施設にしないといけないというわけではないのか？

教育長：今の施設でこども園化して耐久年数でこっちの方に。

部長：こども部としては今のところにこども園化ということ。教育委員会と合わせるとそこに建て替えるのかと思っていた。

教育長：教育委員会の案としては、富岡のこども園化を少し遅らせて新しく作る方が印象がいい。

部長：予算の面も合わせてこども部と協議する。

報告事項①大島東小学校の廃校後の解体作業のスケジュールについて (事務局)

・現在、地元の方の意見を確認中3月末までには使うかどうか決定することをお願いしている。合わせて地元の方が使うことになれば、今年中に決めてもらう。使わないのであればNPO・企業等に募集をかける。自己責任で利用計画があるかどうか。募集にもなければ30年度に計画して31年度の当初予算で解体・撤去。

(意見交換)

市長：木造と2つとも？1番上にあるコンクリートだけ残す？

部長：はい。コンクリートは避難所。

市長：土地の所有者の方にはどうなっているのか？運動場の一部の所有者の方には残して施設が入る。耐震化はこっちでするので民間に払い下げる。でも土地は民間の所有地になっているので借りた場合は持ち主に言って賃料を払ってもらって継続してもらうことをお願いするという事になるのか？

部長：今地元の方との話の中で地元の方が言われているのは、地元で使うことになれば継続して貸してくれると思うと聞いている。

市長：小学校じゃなくなるから小学校の南側の外壁ネット等は早めに撤去するべき。災害があったときにみんな1番車を気にする。今のグラウンドには車が入れないので、入れるようにしたほうがいい。木造2つを買い取りたいという人に売ると裏が災害対策用の備蓄庫・避難所になっているという話になるとどうしても共同使用することになる。駐車場は建物を使う人が出入りするときに使用するが、災害が起きた時には使わせてもらうことになる。運動場に関しては固定資産税はいりません。市の管理で市が賃料を払う。災害用に上の建物と一緒にグラウンドは管理する。その代り駐車場は自由に使ってもらう。建物の固定資産税はいただくようにする。といったようなやり方がいいのではないかと思う。

部長：NPO・企業のプロポーザルの条件とこちらのやり方も含めてその方向で。今まったく車は入れないのか？

山下委員：グラウンドにネットをはっているので車止めをとって入ってる。入る道が狭いので隣の敷地を通らせてもらって入っている。

市長：住民説明を期限をくぎってしっかりやっていく方向で。耐震化できていない建物を市が貸して万が一事故が起きたときに誰の責任かという話にもなるので貸すということは考えにくいと思う。固定資産税を払ってね！売却ということになると思う。

教育長：関係課とのこれからは相談しながらやっていくということで。

山下委員：おそらくまだ地元はそこまで頭が回っていない。活用したいという意見集約も4月以降に動くということになると思う。その中である程度活用の方法を提示していかなければいけない段階になってくると思うが、例えば固定資産税の話で実際どれだけかかるのかということを含めて具体的な提示が必要になると思う。

市長：上の3階建てには広いスペースがあるのか？木造校舎の図書館のような50人くらいが入れるスペース。

教育長：普通教室なのでおそらくないと思う。

市長：大島地区の1番大きな特徴として交流人口がだんだん増えていっているということがある。30～40人のワークショップをとするなら今は海の見える家しかない。

教育長：広いスペースは職員室の上のところにはある講堂と図書室。

市長：普通教室の壁は取れないのか？

山下委員：耐力壁でなければ取れる。

市長：災害対応にするにしても壁は撤去したほうがいいのか。

報告事項②今年度の出生数の見通しと今後の社会動態について

市長のあいさつの通り

市長：昨年が出生数286人。今年は残念ながら240～250人。平成29年度は過去1番低い数字。今社会動態もプラスになっているので来年以降は増えていくのではないかと考えている。サラやアイサービスなどに人が入ってきている実務研修生がベトナム人となると時期がくると帰ってしまうということになるので、できるだけ福山など別の市町村から20代30代の家族持ちが住んでくれると出生数も上がってくると思う。笠岡の有効求人倍率1.6になっている。上がってくると人がいないのでどうしても実務研修生に頼ってしまうので今後の笠岡に大きく影響してくるところだと思う。

報告事項③50メートルプールの跡地利用について

〈事務局〉

- ・昨年グラウンドゴルフ・フットサル場・多目的利用ということで否決された。危険な状態は良くないのでまずは更地に戻すということを当初予算で案を上げている。
- ・危険だということに理解してもらえず、25メートルプールも合わせた全体計画を作成してからでもいいのではないかと意見をいただいているが、そうすると今のまま1年近く先送りすることになるので事務局としては撤去の方向で進めていきたいと考えている。

〈意見交換〉

市長：教育委員会として議会に何かできないのか。

教育長：教育委員会としては総務文教を含めて議員の方に議論するまでの危険性をどうするのか説明していきたいと思っている。

市長：山本議員の意見としては、笠岡に夜間照明付きの場所が少ないのでそういった施設ができることには賛成だが、井笠地区に50メートルプールはあるべきだと言っている。25メートルプールを撤去して幼児用・50メートルプールにする。50メートルプールを25メートルでも利用できるように半分浅くするのはどうか。

教育長：真ん中に柵などあれば大丈夫だが、急に深くなってしまふのでそれはかえって非常に危険。使用頻度を考えたときに子どもたちが競技用なら50メートルを使うが、子供たちは遊ぶために利用するので低くなる。急に深くなって事故が起きた場合がある。

市長：50メートル競技用のプールはいるのかということに対し教育委員会としてはどう答えるのか。

石井委員：井笠地区にないので私はあった方がいいと思う。

三谷委員：水漏れしていなければそのままあった方がいいと思うが、小学生は入れる学年が限られているし中学生は利用せず、市外にある遊べるプールに行ってしまうので遊ぶためには50メートルプールは必要ないと思う。年に1、2回のためにお金をかけて作るのは今の予算では難しい。

藤谷委員：私はないよりあった方がいいと思うが、今の笠岡市の現状として、利用する人の人数からしてそこまでお金をかける必要はないのではないかと考える。最低限自分が溺れないように水の中で泳ぐことを学ぶことは必要だと思う。

山下委員：ないよりあった方がいいのは理想論。ニーズとしてどれだけの深さがあるかというところが大事。

教育長：あれば使うが、無くてもどうにかになっている。地区の子供たちが水泳という観点で盛り上がるという意味の場ではあってもいいと思うが、基本的には25メートル泳げる子をたくさん育てる方が学校教育の中では必要なもので、今の現状としては50メートルが果たす役目が変わってきている。1つのシンボルとしてはあることに越したことはないが、校長先生方に聞くと同じ3億6千万かけるのであれば他に優先順位があると思うというのが皆さんの意見。学校の多い大きい市町

はプールの維持管理が大変なので、バスを利用して50メートルプールのある市のプールへ行って水泳をさせている。

市長：危険だからといって補正は組めるのか？

部長：6月には出そうと思っている。教育委員会としては危険性のことを言っているので否決されたからといって危険だという意見は変わらないので。

市長：大会などで倉敷などに行く人には助成をするということをやってみてもいいのではないか。

報告事項④オリンピック・パラリンピックの誘致活動について

〈事務局〉

・マレーシアのバドミントンナショナルチームの誘致を行う。

案①東京オリンピック直前のキャンプは愛媛が第一候補だと思うので、その前後に笠岡に来てもらう。

案②2019年度に強化合宿等で来てもらう。

費用については渡航費は出してもらい、国内の移動・宿泊費は笠岡市が負担する案をマレーシアのスポーツ庁に投げかけている。その話で協議に行かせていただくスケジュールを17日（土）からと27日（火）からのどちらかで投げかけているがまだ返事をいただけていない。そこで感触を見ながら7月5日に市長・議長・教育長が行き大臣に面会するというスケジュールで考えている。相手側に有利な条件にするかという話については吉岡会長からそこまでしないほうが良いという意見をいただいている。27日が駄目なら4月か5月で考えている。どちらにしても市長・議長・教育長の訪問は2019年のコタバル市との友好姉妹都市20周年なので事前キャンプの話萌合わせて行くことになっている。

市長：バドミントンも大事だが、パラリンピックもマレーシアが出そうならバリアフリーも施設もあるので投げかけるべき。

部長：パラリンピックについても施設についても投げかけている。

(5) その他

委員からは特になし。

教育長：日本遺産については教育委員会の方で説明した。

市長：7月に認可が下りたら観光客が増えるがそれをどうやって維持していくかが大事。民泊やトレッキングなどに結びつけていけないといけない。

部長：3月26日に笠岡グランドホテルで15時半から石の島サミットがある。

教育長：学校の校長先生方にも連絡している。

市長：先ほどのマレーシアの件で吉岡会長から笠岡ロータリークラブが春にサッカー大会で岡山県以外からも40チームくらい参加がある大きな大会で、マレーシアの子供たちも呼んで参加させるのはどうかという意見がある。費用はルームワコー。そのときは20周年記念で笠岡市教育委員会の共催でやってほしいと。

教育長：既存の大会の中でいれていくというニュアンスで。

部長：教育委員会だけでなく笠岡市も後援・共催で行うという方向で。